

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年2月6日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第594号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌358「神なく望みなく」 p. 572

【交読文】 No.16 詩篇第42篇 p. 891

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.20「神の国となる為に」

【聖書朗読】 使徒の働き14章8節～18節(新約p. 263上段)

【礼拝説教】 《リステラにおいて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1.「リステラ(ルステラ)」とは？

■ルステラ〈ギ〉Lustra 小アジア南部、南ガラテヤのルカオニヤ地方の町で、イコニオムの南西約40キロにあった。町は丘の上にあり、肥沃な平原に囲まれ、小さな2本の川が町の近くを流れていた。紀元前6年アウグストゥスが建てた新しい軍事植民都市の一つである。この頃の町の人口構成は、少数の軍人貴族のローマ人が支配階級を占め、教養のあるギリシヤ人が第2の階層(テモテの父等)を形成しており、大半は一般の無教養なルカオニヤ人が占めていた。パウロとバルナバは第1回伝道旅行の際にこの町を訪問した。パウロが足の不自由な人をいやす奇蹟を行なった時に、町の住民は、ローマの詩人オヴィディウスの著作の中で、ゼウスとヘルメスがこの地方を訪ねたという伝説から、パウロとバルナバを神々が人間の姿を取って下って来たと考え、彼らにいけにえを捧げようとし

た。第2回伝道旅行の際にもパウロとシラスはこの地方を訪れ、この町の出身者ギリシャ人テモテに割礼を受けさせた。さらに第一回教会会議の報告の為に、また第3回伝道旅行の際にも、この町を訪れている。

### ●ポイント2.「生まれつき足の動かない人のいやし」とは？

#### ※使徒の働き3章1節～10節「神殿内の美しい門にて」(新約p.236下段)

- 3:1 ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。
- 3:2 すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しい門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。
- 3:3 彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとすることを見て、施しを求めた。
- 3:4 ペテロは、ヨハネと共にその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。
- 3:5 彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。
- 3:6 するとペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」
- 3:7 そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、
- 3:8 躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。
- 3:9 人々はみな、彼が歩きながら神を賛美しているのを見た。
- 3:10 そしてそれが、宮の美しい門のところで施しを求めて座っていた人だと分かったと、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いた。

### ●ポイント3. 私たちは誰を見るのか？

#### ※第Ⅱコリント4章18節「見えるものではなく」(新約p.360上段)

4:18 私たちは見えるものにはではなく、見えないものに目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。

#### ※コロサイ書1章15節「見えない神のかたち」(新約p.402上段)

1:15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【この方はどなたなのだろうか】

《「向こう岸へ渡ろう。」と主イエスご自身が言われました。一艘の舟に十二弟子と主が乗り、他の舟には別の弟子が乗ってついて行きます。つまりこの奇跡を体験したのは、十二弟子以外にも存在したと言うことです。

ところで、十二使徒のペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネの4人は、プロの漁師であり、ガリラヤ湖については知り尽くしていました。しかし、彼らがかつて経験したことの無い激しい暴風が起こったのです。波が舟の中にまで入り、舟は水で一杯になりました。彼らは何とかして舟を陸地に戻そうと試みたのですが、ついに万策が尽きて、死を覚悟しました。

そして、「先生。私たちが死んでも、かまわないのですか。」と、主イエスを起こしますと、主は、起き上がって風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ。」と言われました。すると風は一瞬で止み、大風ぎになったのです。

実は詩篇107篇の中に、この時の預言が書かれています。

『船に乗って海に出る者大海で商いする者彼らは見た。主のみわざを深い海でその奇しいみわざを。主が命じて激しい暴風を起こされると風が波を高くした。彼らは天に上り深みに下りそのたましいはみじめにも溶け去った。この苦しみの時に彼らが主に向かって叫ぶと主は彼らを苦悩から導き出された。主が嵐を鎮められると波は穏やかになった。波がないので彼らは喜んだ。主は彼らをその望む港に導かれた。』と。

主イエスは彼らに言われました。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」この言葉は、当時の弟子たちだけでなく、今生きている私たち一人一人にも語られています。私たちも恐れる者であり、小さな信仰の持ち主なのです。彼らは非常に恐れて、互いに言いました。

「風や湖までが言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなのだろうか。」と。この言葉は、奇跡を体験した者だけが言える言葉であります。

このお方こそが「まことの救い主」であり、「創造主なる神様」であられるのです。私たちは、このお方に従い、共に歩んで行くのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は2月13日(日)教会にて行ないます。また5月29日(日)・7月31日(日)・10月30日(日)の第五主日は、特別メッセージを語ります。